

資料②：実証運行の利用状況と評価

目 次

1.実証運行の運行状況	1
1-1.1 日ごとの運行状況	2
1-2.車両の稼働状況	3
2.実証運行の利用状況	4
2-1.登録者数	4
2-2.利用者数	6
3.デマンドバス実証運行の評価	19
3-1.公共交通空白地域・時間帯における移動支援	20
3-2.既存の公共交通との連携	21
3-3.財政負担の軽減	22
3-4.観光客の来訪促進	22
3-5.新たな観光客層の掘り起こし	23
3-6.滞在型観光への展開	23
3-7.南城市観光の満足度・再来訪意向の向上	24
3-8.交通弱者の外出支援	24
3-9.交通弱者の外出機会の創出	25
4.利用者の評価	26
4-1.市民の評価	26
4-2.観光客の評価	27
5.今後の利用意向	28
5-1.市民の意向	28
5-2.観光客の意向	29
6.今後の課題	30

平成 26 年 3 月

南 城 市

1.実証運行の運行状況

- 平成 25 年 12 月 9 日(月)より、65 才以上の市民を対象としたデマンドバス「おでかけなんじい」を、平成 26 年 2 月 28 日(金)より、観光客を対象とした「観光おまかせなんじい」を、それぞれ 3 月 31 日(月)まで運行しています。
- 「観光おまかせなんじい」は、ユインチホテル南城を起点に、南城市内を周遊するルート設定となっており、必ず立ち寄るメインポイントと、観光客の要望によって降車する立ち寄りポイントを設定しています。



図-1.観光おまかせなんじいの周遊ルート

1-1.1 日ごとの運行状況

- 12/9～3/10までの期間でこれまで2,333便運行され、実証運行期間中は、平日で平均29.3便/日、休日で平均21.0便/日運行されています。
- 平日の時間帯別では、10時台～13時台が2.9～3.2便/時と多く、18時台～20時台が0.2～1.5便/時と少なくなっています。
- 休日の時間帯別では、10時台が2.4便/時と最も多く、9～13時台が2.0便/時以上と、午前～お昼にかけての便数が多くなっています。

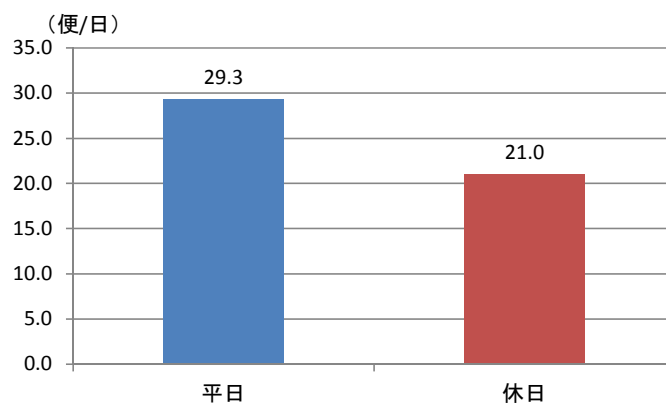


図-2.デマンドバスの運行状況(平日・休日別)

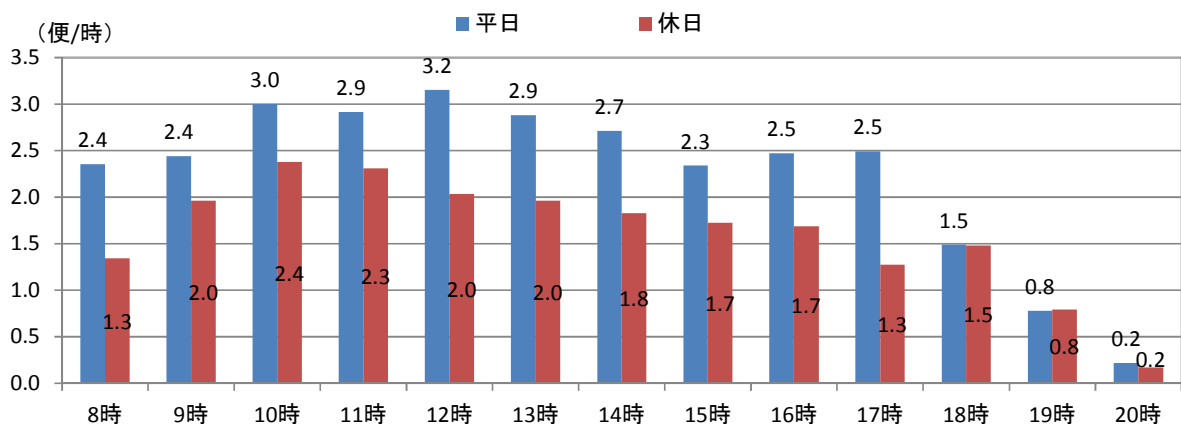


図-3.デマンドバスの運行状況(時間帯別)

1-2.車両の稼働状況

- 3/10までの車両の稼働状況は、5台平均で平日が5.8便/日、休日が4.2便/日、あわせて5.3便/日稼働しています。
- 個別の車両ごとにみると、3号車、1号車は1日平均7.2便～8.0便と多く稼働しています。観光客向けに運用していることもありますが、5号車は平均2.3便/日と稼働回数が少なくなっています。
- 3/10までの平均乗車人員は、全運行本数2,333便のうち、1,151便（49.3%）が1人乗車、709便（30.4%）が2人乗車と全体の約8割が2人以下の乗車となっており、1便あたりの平均乗車人員は1.9人と座席数にはまだ余裕があります。

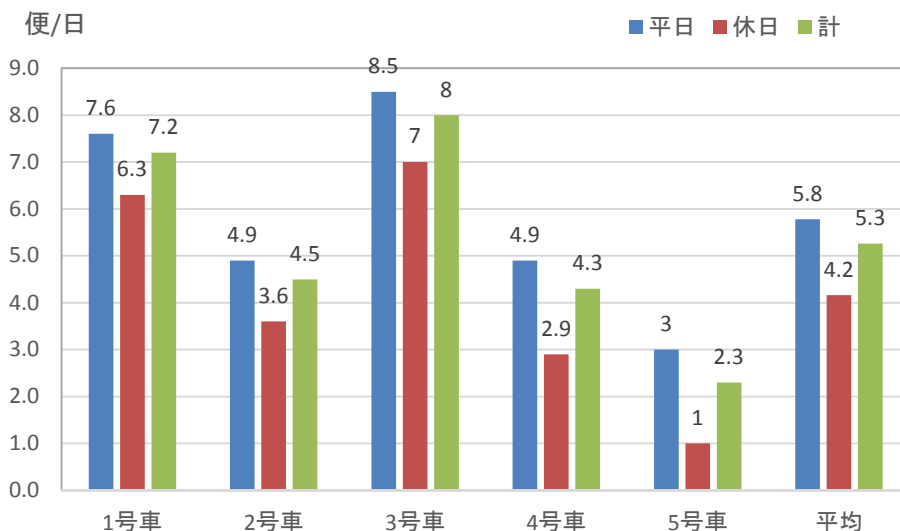


図-4.デマンドバスの車両別の稼働状況

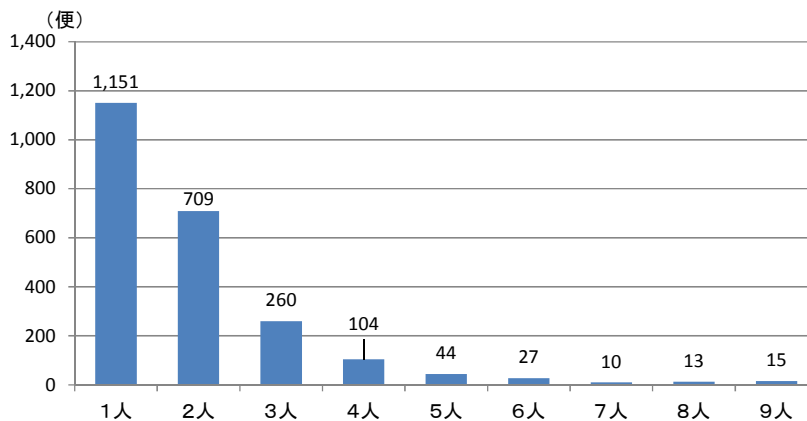


図-5.一便あたりの利用者数

2.実証運行の利用状況

2-1.登録者数

- 3/10現在で986名の方がデマンドバスに登録しており、地域別では「玉城地域」283名、「大里地域」230名、「佐敷地域」222名、「知念地域」177名の順に多くなっています。
- デマンドバスへの登録率は、「平川」、「大里第二団地」など登録者なしの0%から「大里ニュータウン」の42.3%と行政区により大きな差がみられます。
- 「大里ニュータウン」以外では、「つきしろ」30.8%、「仲村渠」27.3%、「富祖崎」27.1%、「親慶原」25.8%の順で高くなっています。

表-1.デマンドバスの行政区別登録者数

行政区	65歳以上人口	登録者数	登録率	備考	行政区	65歳以上人口	登録者数	登録率	備考	
玉城地域	親慶原	299	77	25.8%		津波古	615	33	5.4%	
	垣花	111	8	7.2%		小谷	226	10	4.4%	
	仲村渠	66	18	27.3%		新里	193	12	6.2%	
	百名	190	33	17.4%		兼久	95	13	13.7%	
	新原	68	7	10.3%		佐敷	193	4	2.1%	自衛隊含まず
	玉城	50	1	2.0%		手登根	205	34	16.6%	
	中山	69	10	14.5%		伊原	77	14	18.2%	
	奥武	255	9	3.5%		屋比久	103	14	13.6%	
	志堅原	84	7	8.3%		外間	42		0.0%	
	堀川	131	14	10.7%		富祖崎	118	32	27.1%	
	富里	81	8	9.9%		仲伊保	159	24	15.1%	
	富山	91	8	8.8%		新開	333	32	9.6%	
	屋嘉部	89	7	7.9%		小計	2,359	222	9.4%	
	糸数	145	17	11.7%		西原	37	2	5.4%	
	喜良原	175	7	4.0%		南風原	70	7	10.0%	
	船越	235	41	17.4%		平良	175		0.0%	
	愛地	132	4	3.0%		嶺井	128	15	11.7%	
	前川	248	7	2.8%		嶺井団地	81		0.0%	
	小計	2,519	283	11.2%		古堅	88	8	9.1%	
知念地域	志喜屋	204	37	18.1%		福原	100	1	1.0%	
	山里	67	7	10.4%		島袋	103	20	19.4%	
	具志堅	55	6	10.9%	刑務所含まず	当間	121	5	4.1%	
	知念	186	16	8.6%	自衛隊含まず	仲程	110	15	13.6%	
	吉富	46	4	8.7%	自衛隊含まず	高宮城	64	3	4.7%	
	久手堅	154	5	3.2%		銭又	51	2	3.9%	
	安座真	142	26	18.3%		平川	88		0.0%	
	知名	203	45	22.2%		稲嶺	162	7	4.3%	
	海野	145	11	7.6%		大里グリーンタウン	527	32	6.1%	
	久原	94	8	8.5%		目取真	143	35	24.5%	
	久高	94	12	12.8%		湧稲国	122	23	18.9%	
	小計	1,390	177	12.7%		大城	149	31	20.8%	
	大里地域					稲福	66	3	4.5%	
					真境名	57	9	15.8%		
					大里団地	26	1	3.8%		
					大里第二団地	11		0.0%		
					大里ニュータウン	26	11	42.3%		
					第二グリーンタウン	22		0.0%		
					小計	2,527	230	9.1%		
					つきしろ	240	74	30.8%		
					小計	240	74	30.8%		
					計	9,035	986	10.9%		

- 登録はしているものの、実際には利用していない方が36%います。
- 利用していない理由として、「自分で運転できる」、「家族・知人が送迎してくれる」という理由があり、外出の際に、すぐに利用できる交通手段が確保されていると考えられます。
- 次いで「外出する機会があまりない」と、利用自体の必要性が少ない方がいます。
- また、デマンドバス利用に不安や不明な点があり、利用していない方もいます。

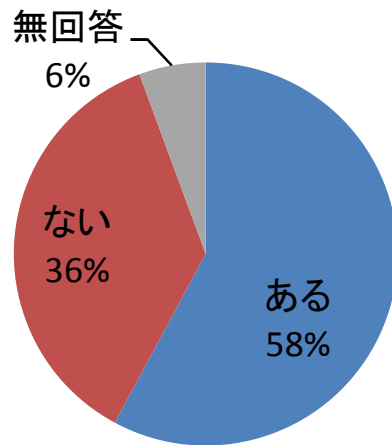


図-6.「おでかけなんじい」利用の有無

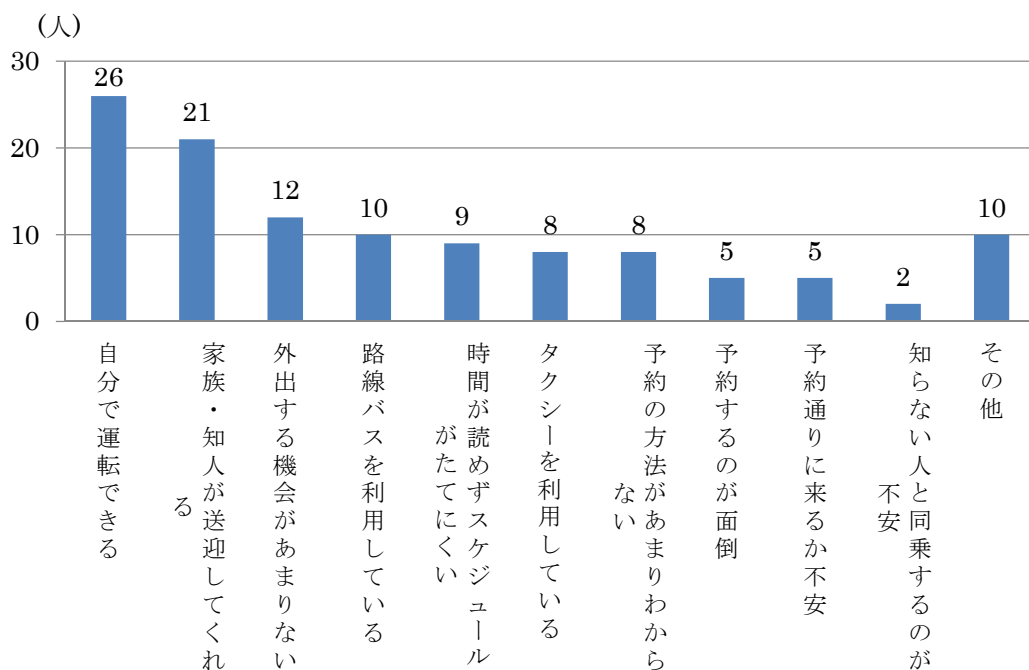


図-7.「おでかけなんじい」を利用していない理由

2-2.利用者数

(1)おでかけなんじい

1)利用者の属性

- 「おでかけなんじい」利用者の男女構成は、「女性」が82%と非常に多く、一方で「男性」は、わずか18%しか占めておらず、男性にはあまり利用されていません。
- 年齢構成は、「70～74才」が34%、「75～79才」が33%と70代で67%を占めており、その他では「80～84才」が15%、「65～69才」が14%と構成比が高くなっています。
- 利用者の居住地は、玉城地域が693人と利用者が最も多く、次いで知念地域381人、佐敷地域373人、大里地域285人の順となっています。（自宅から出発している方の人数）

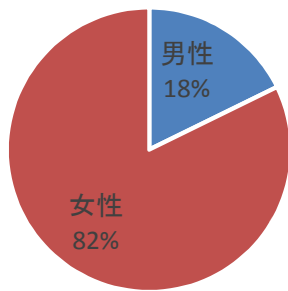


図-8.「おでかけなんじい」利用者の性別

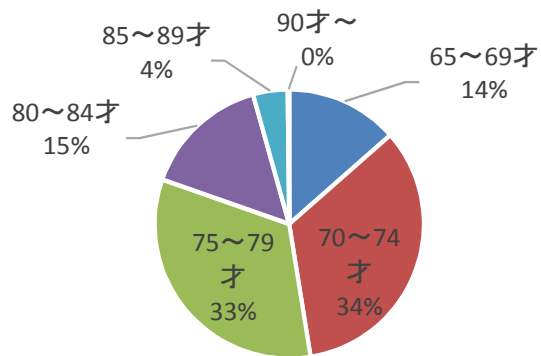


図-9.「おでかけなんじい」利用者の年齢

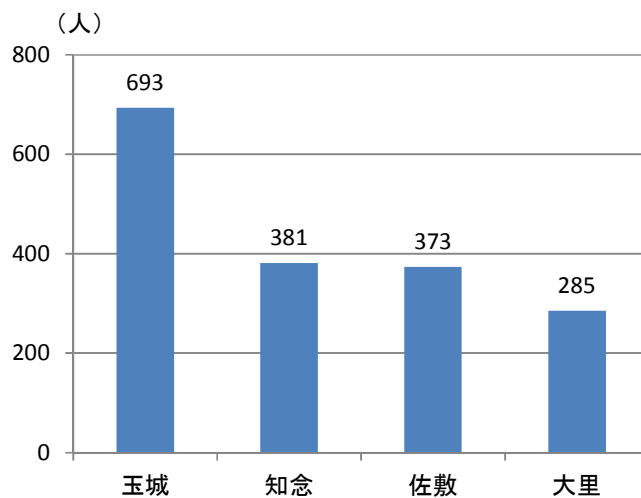


図-10.地域別の利用者数(自宅を出発している方)

- 自宅を出発地とする利用者の行政区別の人数は、「大里グリーンタウン」が145人と最も多く、次いで「百名」128人、「知名」が117人、「船越」が82人と多くなっています。
- 人口100人あたりの利用者数は、「屋嘉部」87.6人、「仲村渠」80.3人、「兼久」75.8人、「百名」67.4人、「中山」63.8人の順で多くなっています。
- なお、全体の利用者数は延べ4473人、純利用者は415人となっており、1人あたり平均で10.8回利用していることとなります。

表-2.デマンドバスの行政区別利用者数

行政区	65歳以上人口	登録者数	利用者数	高齢者100人あたり利用者数	備考	行政区	65歳以上人口	登録者数	利用者数	高齢者100人あたり利用者数	備考		
玉城地域	親慶原	299	77	58	19.4		佐敷地域	津波古	615	33	26	4.2	
	垣花	111	8	9	8.1			小谷	226	10	28	12.4	
	仲村渠	66	18	53	80.3			新里	193	12	68	35.2	
	百名	190	33	128	67.4			兼久	95	13	72	75.8	
	新原	68	7	8	11.8			佐敷	193	4	11	5.7	自衛隊含まず
	玉城	50	1		0.0			手登根	205	34	38	18.5	
	中山	69	10	44	63.8			伊原	77	14	25	32.5	
	奥武	255	9	47	18.4			屋比久	103	14	48	46.6	
	志堅原	84	7	48	57.1			外間	42			0.0	
	堀川	131	14	35	26.7			富祖崎	118	32	13	11.0	
	富里	81	8	6	7.4			仲伊保	159	24	5	3.1	
	富山	91	8	4	4.4			新開	333	32	39	11.7	
	屋嘉部	89	7	78	87.6			小計	2,359	222	373	15.8	
	糸数	145	17	44	30.3			西原	37	2	16	43.2	
	喜良原	175	7	1	0.6			南風原	70	7	4	5.7	
	船越	235	41	82	34.9			平良	175			0.0	
	愛地	132	4	46	34.8			嶺井	128	15	35	27.3	
前川	248	7	2	0.8		嶺井団地	81			0.0			
小計	2,519	283	693	27.5		古堅	88	8	20	22.7			
知念地域	志喜屋	204	37	75	36.8		福原	100	1		0.0		
	山里	67	7	7	10.4		島袋	103	20	6	5.8		
	具志堅	55	6	18	32.7	刑務所含まず	当間	121	5	1	0.8		
	知念	186	16	27	14.5	自衛隊含まず	仲程	110	15	8	7.3		
	吉富	46	4	15	32.6	自衛隊含まず	高宮城	64	3		0.0		
	久手堅	154	5	3	1.9		銭又	51	2		0.0		
	安座真	142	26	68	47.9		平川	88			0.0		
	知名	203	45	117	57.6		稲嶺	162	7	6	3.7		
	海野	145	11	45	31.0		大里グリーンタウン	527	32	145	27.5		
	久原	94	8	5	5.3		目取真	143	35	10	7.0		
	久高	94	12	1	1.1		湧稲国	122	23	21	17.2		
	小計	1,390	177	381	27.4		大城	149	31	3	2.0		
	大里地域							稲福	66	3		0.0	
							真境名	57	9	9	15.8		
							大里団地	26	1	1	3.8		
							大里第二団地	11			0.0		
							大里ニュータウン	26	11		0.0		
							第二グリーンタウン	22			0.0		
							小計	2527	230	285	11.3		
							つきしろ	240	74	69	28.8		
							小計	240	74	69	28.8		
							計	9,035	986	1,801	19.9		

2)利用者数の推移

- 実証運行開始以降、3/10までに延べ4,473人、1日平均51人/日が利用しています。
- 利用者数は、日によってばらつきは多いですが、週毎の1日あたりの平均利用者数は、開始直後の18.9人/日から、3月第1週には78.4人/日と順調に増加しています。

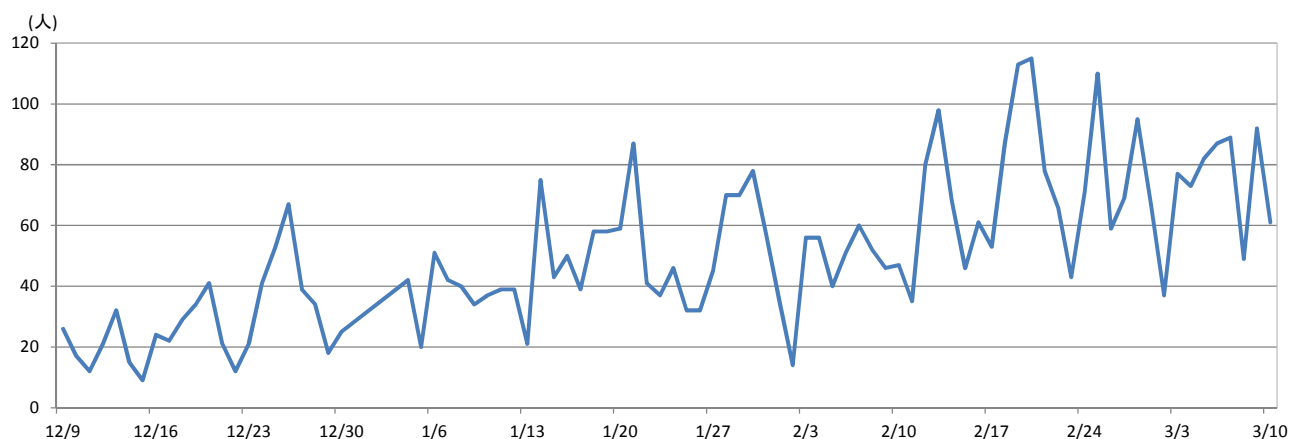


図-11.実証運行開始以降の日別の利用者数の推移

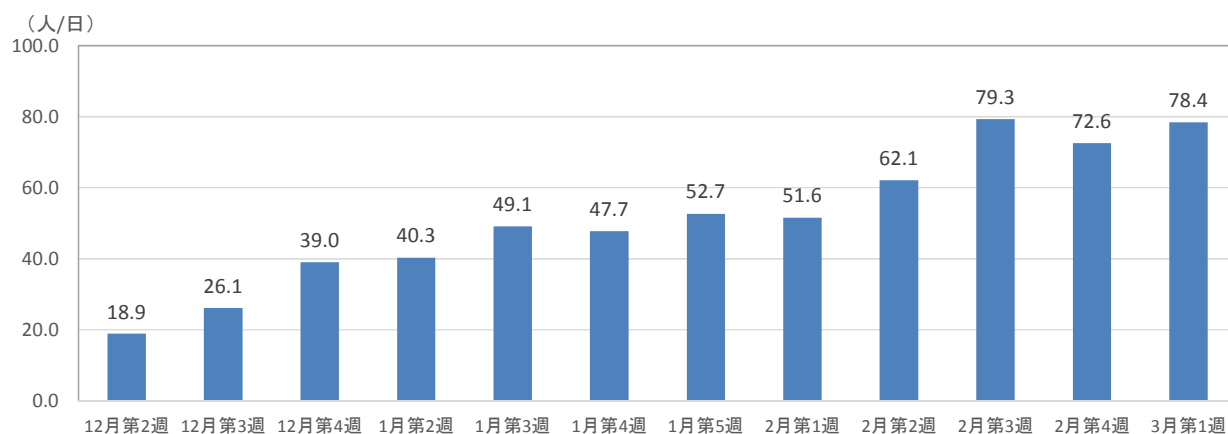


図-12.実証運行開始以降の週別の利用者数の推移

3)平日休日別・時間帯別の利用状況

- 「おでかけなんじい」の平日、休日別の利用状況をみると、3/10までで平日は1日平均56.9人/日、休日は1日平均38.4人/日が利用しており、平日の利用が多くなっています。
- 3月の第1週には、平日は1日平均76.3人/日、休日は1日平均52.0人/日と順調に増加してきています。
- 時間帯別の利用状況をみると、3/10までで平日は8時台から17時台を中心に利用されており、休日は9時台から14時台の時間帯と18時台を中心に利用されています。
(昨年度調査では、午前中が多いという結果でしたが、今年度の利用時間帯は散っています。)
- なお、着信数は、8時台が1日平均9.6回と最も多く、次いで9時台、10時台が1日平均8.9回と午前中に集中しています。

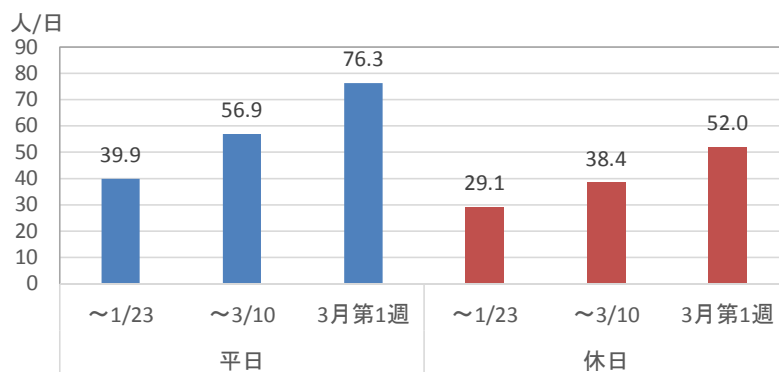


図-13. 平日・休日別の平均利用者数

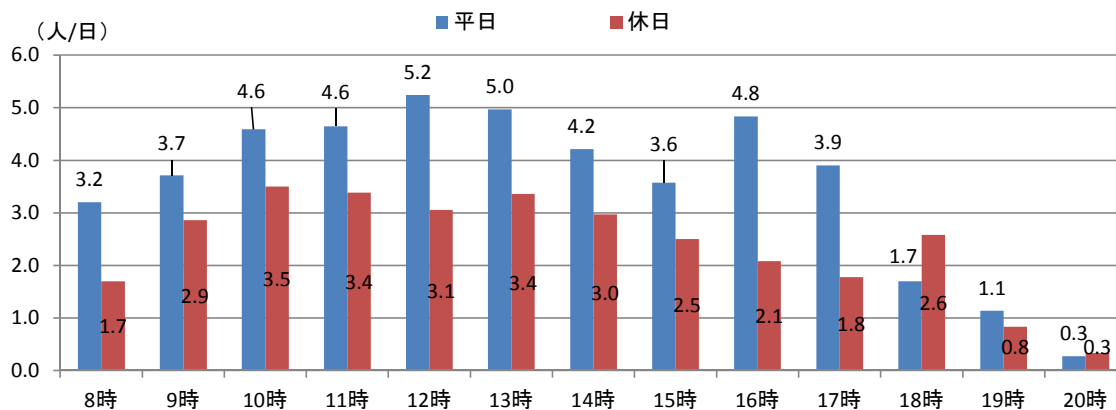


図-14. 時間帯別の平均利用者数

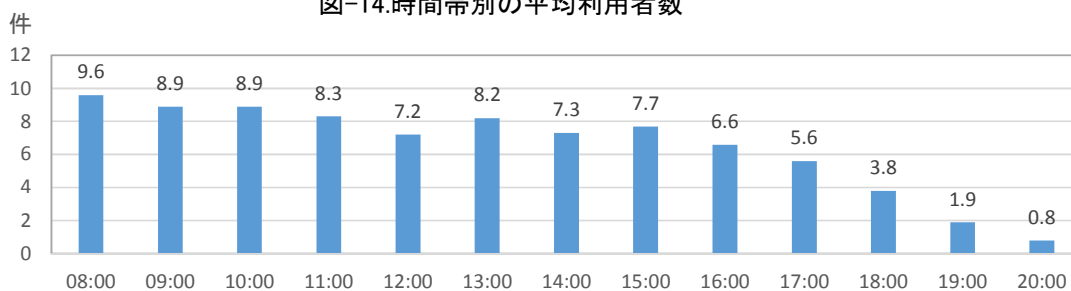


図-15. 時間帯別の平均着信数

4)立ち寄り先

- 行き先の多くはスーパーであり、「アトール」、「イオン大里店」、「丸大佐敷店」などへの移動が多くなっています。
- スーパー以外では、「沖縄メディカル病院」への移動が第1位であるなど医療機関も多くなっており、次いでサークル活動等への参加により「南城市玉城中央公民館」も多く、その他では、バス停、飲食店等への移動もみられます。
- バス停では、市外への境界に近い「馬天入口バス停」、「屋宜原バス停付近」（屋宜原バス停は八重瀬町）、「新開バス停」までの移動が多くみられ、市内の移動をデマンドバスが、市外への移動を路線バスが担っている状況がうかがえます。

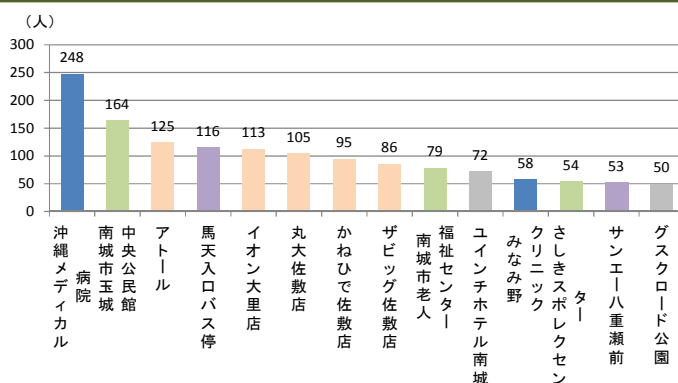


図-16.主な目的地・施設(自宅を除く)

表-3.デマンドバスでの主な立ち寄り先

公共施設		医療機関		商業施設		観光施設		交通施設		その他	
目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数	目的地	人数
南城市玉城中央公民館	164	沖縄メディカル病院	248	アトール	125	がんじゅう駅南城	42	馬天入口バス停	116	ユインチホテル南城	72
南城市老人福祉センター	79	みなみ野クリニック	58	イオン大里店	113	おきなわワールド	41	サンエー八重瀬店前(屋宜原バス停近く)	53	グスクロード公園	50
さしきスポレクセンター	54	みなみ耳鼻咽喉科医院	31	丸大佐敷店	105			安座真船待合所	42	大里パークゴルフ場	41
南城市役所大里庁舎	48	南城歯科クリニック	23	かねひで佐敷店	95			新開バス停	23	琉球銀行佐敷支店	41
つきしろ公民館	42	ふじた眼科	20	ザビッグ佐敷店	86					チャーリーレストラン	23
大里南児童館	41			軽便駅かりゆし市	41					居酒屋たかふじ	19
湧稲国公民館	40			高原の駅なんじょう	28						

5) 地域間の移動状況

●自宅から目的地までの地域間の移動人数を見てみると、玉城地域→佐敷地域への移動が261人と最も多く、次いで、玉城地域→大里地域240人、知念地域→佐敷地域210人と多くなっており、スーパーや医療機関、路線バスの乗り継ぎ拠点がある佐敷地域や大里地域への移動が多くなっています。

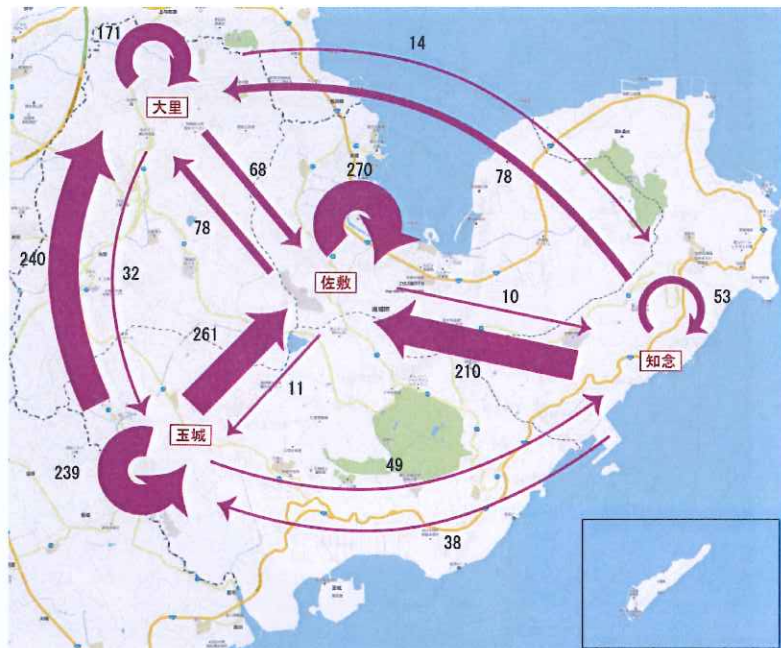


図-17.地域間の移動状況(自宅→目的地)

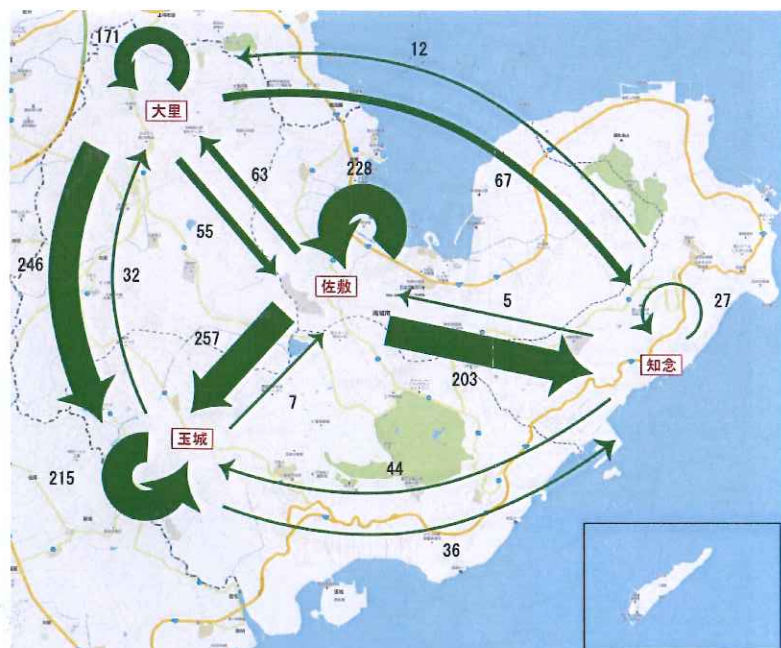


図-18.地域間の移動状況(目的地→自宅)

6)地区間の移動状況

- 自宅から目的地方向の地区間の移動は、玉城親慶原→佐敷津波古が64人と最も多く、次いで、佐敷兼久→佐敷津波古58人、佐敷新里→佐敷津波古44人、知念海野→佐敷津波古42人、玉城奥武→玉城富里40人の順で多くなっています。

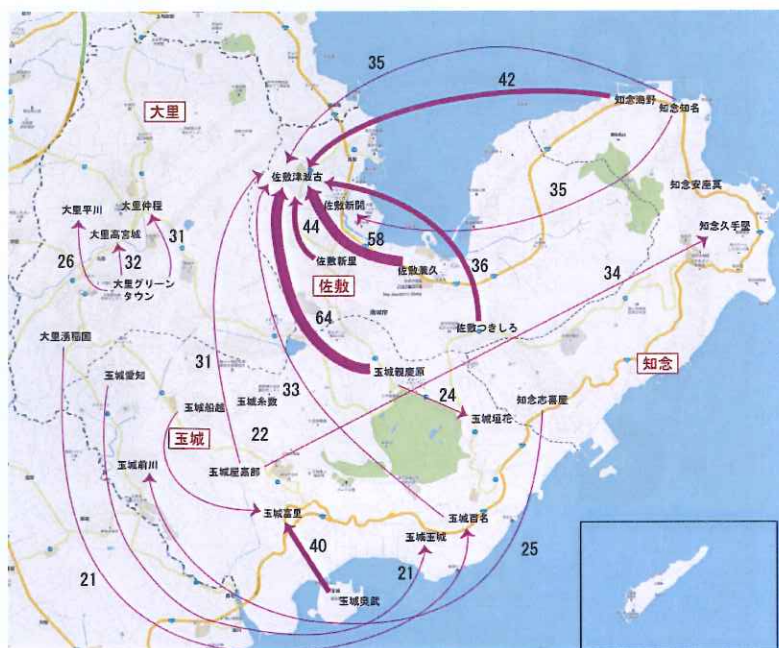


図-19.地区間の移動状況(自宅→目的地)



図-20.地区間の移動状況(目的地→自宅)

7)観光客の利用

- 「おでかけなんじい」においても、観光客の利用があり、3/10までに59名の方が利用しています。
- 主な乗車場所は、「地域物産館・がんじゅう駅」が17人と最も多く、次いで、「安座真船待合所」11人、「おきなわワールド」9人の順に多くなっています。
- 主な降車場所は、「おきなわワールド」10人、「馬天入口バス停」9人、「安座真船待合所」8人の順に多くなっています。
- 「地域物産館・がんじゅう駅」は乗車の方が非常に多くなっていますが、これは、近くの斎場御嶽までは市外から直接路線バスできたものの、帰りのバスの待ち時間が長いため、「おでかけなんじい」で次の目的地に向かっている方が多いためだと考えられます。
- また、「馬天入口バス停」は、周辺に観光地がないため、ここから乗車して市内を回る方はいませんが、市内観光を終え、帰路につく際に、市外向けの路線バスの乗車するため、多くの観光客が降車していると考えられます。

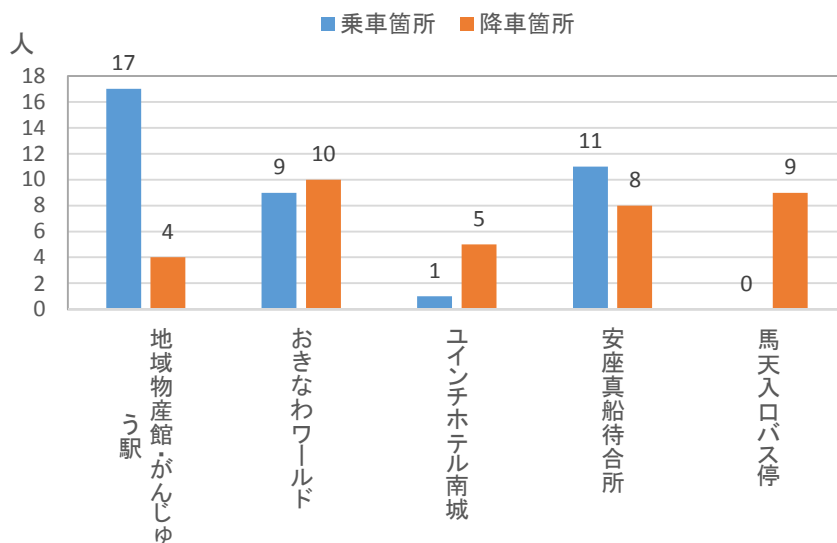
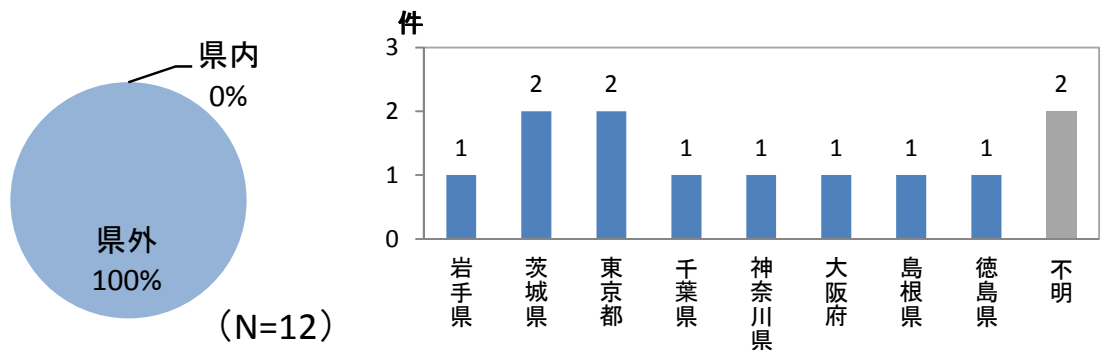


図-21.観光客の「おでかけなんじい」の主な乗降場所

(2) 観光おまかせなんじい

1) 利用者の属性

- 「観光おまかせなんじい」の利用者アンケートは、現段階では有効回答サンプル数が12と少ないため、以降で整理する結果も参考値としての扱いとなります。
- 利用者の居住地をみると、全ての人が県外となっており、住所不明を除く10サンプルのうち、6サンプルが関東圏（茨城県、東京都、千葉県、神奈川県）となっています。

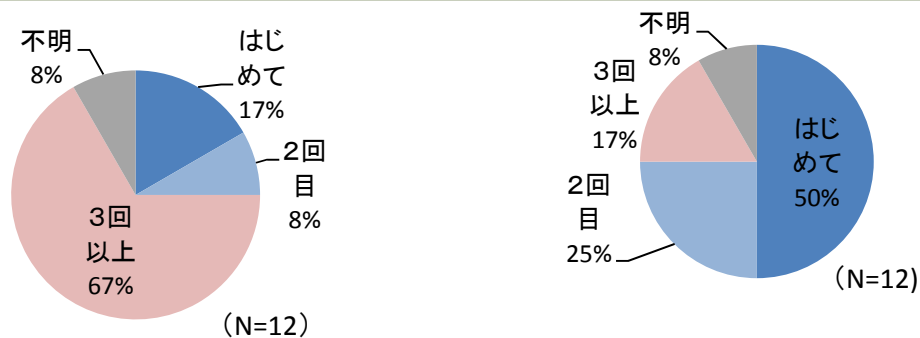


資料: 利用者アンケート(観光客)

図-22.「観光おまかせなんじい」利用者の居住地(左: 県内・県外別、右: 都道府県別)

2) 利用者の南城市来訪状況

- 「観光おまかせなんじい」の利用者の沖縄来訪回数は、「3回以上」が67%（約2/3）と最も多く、ついで「はじめて」が17%、2回目が8%となっています。
- 南城市へ来訪回数は、「はじめて」が50%と最も多く、ついで2回目が25%、3回目が17%となっています。
- 沖縄に何回か来訪した経験のある人が2番目以降の立ち寄り先として南城市を選択する傾向となっています。



資料: 利用者アンケート(観光客)

図-23.「観光おまかせなんじい」利用者の沖縄・南城市来訪状況(左: 沖縄、右: 南城市)

- 「観光おまかせなんじい」の利用者の南城市へ来訪目的は、12人中9人が「観光」と回答しており、「その他」では植物散策、島巡りといった目的があります。
- 南城市内での滞在日数は、「日帰り」が最も多く42%、ついで「3日間以上」が33%、「2日間」が17%となっています。
- 来訪者の宿泊先をみると、「南城市内での宿泊」は36%（約1／3程度）となっており、複数日滞在者（73%）の半数程度の人には「市外宿泊→南城市へ来訪」する交通行動となっていると予想されます。
- 南城市までの交通手段は、「路線バス」が59%と最も多く、ついで「レンタカー」が25%となっています。

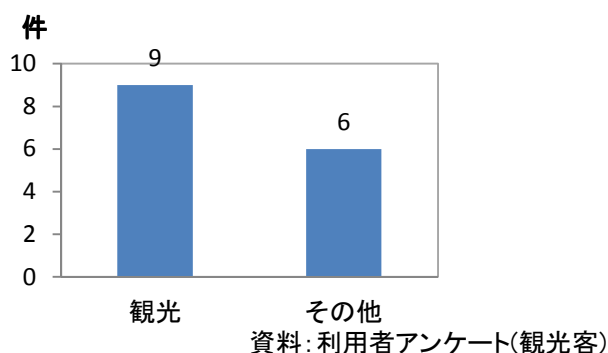


図-24.南城市への来訪目的(複数回答)

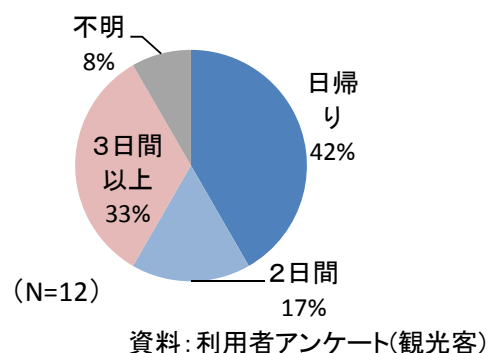


図-25.南城市への滞在日数

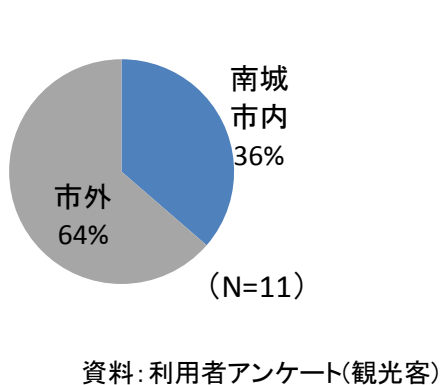


図-26.宿泊先

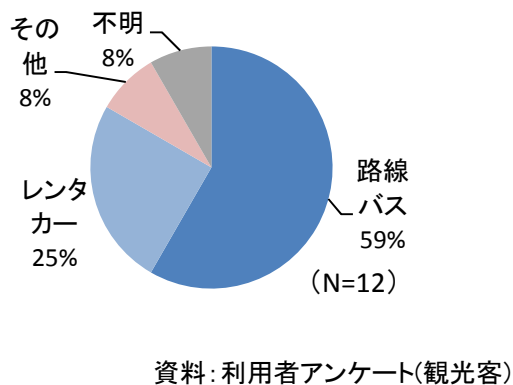
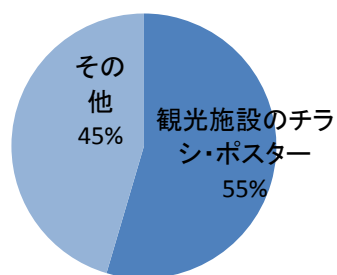


図-27.南城市までの交通手段

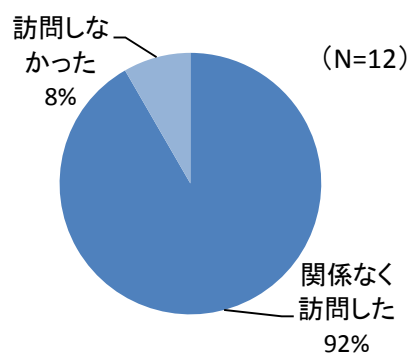
3)「観光おまかせなんじい」の利用状況の内訳

- 「観光おまかせなんじい」を知ったきっかけは、「観光施設のチラシ・ポスター」が55%と多く、その他では「安座真港の看板」などがあげられています。
- 「『観光おまかせなんじい』が無かった場合、南城市を訪れていなかったか」との問いには、92%が「関係なく訪問した」と回答しており、「観光おまかせなんじい」そのものが集客力を持つとはいえない状況です。



(N=11)

資料:利用者アンケート(観光客)



(N=12)

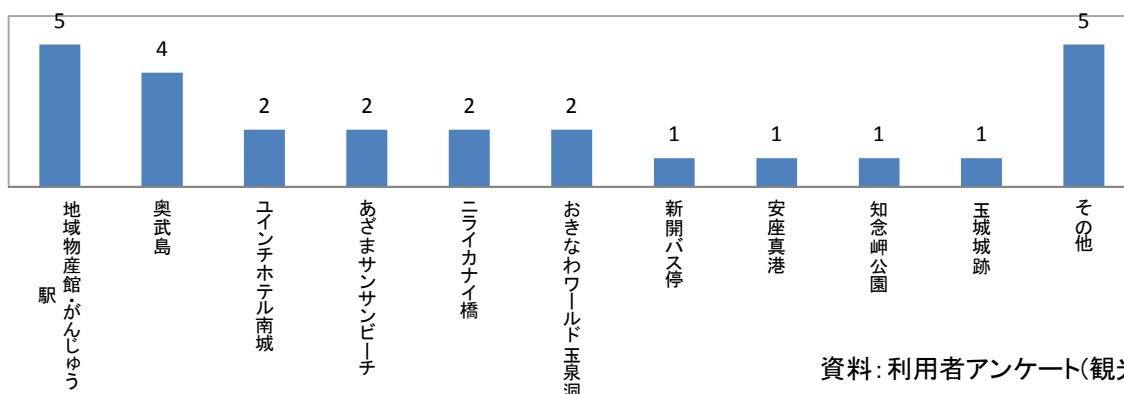
資料:利用者アンケート(観光客)

図-28.「観光おまかせなんじい」を知ったきっかけ

図-29.「観光おまかせなんじい」が無い場合の来訪意向について

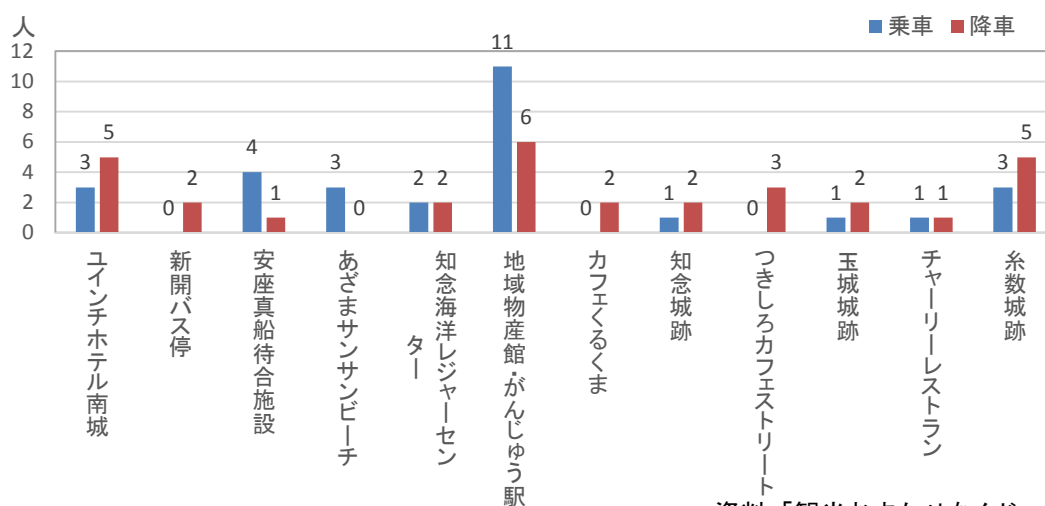
4) 立ち寄り先

- 利用者アンケートによると、来訪者の立ち寄りポイントは、地域物産館・がんじゅう駅（5 サンプル）、奥武島（4 サンプル）、ユインチホテル南城、あざまサンサンビーチ、ニライカナイ橋、おきなわワールド玉泉洞（2 サンプル）となっており、知念地域～玉城地域間が主な立ち寄り地域となっています。
- 一人あたり立ち寄り箇所数は、平均約 2.4 箇所となっています。
- また、「観光おまかせなんじい」の乗降記録によると、乗車場所としてはこれまで「地域物産館・がんじゅう駅」が 11 人と最も多く利用され、その他では「安座真船待合施設」が 4 人と乗車場所として多く利用されています。
- 一方、降車先としては斎場御嶽最寄りの「地域物産館・がんじゅう駅」の 6 名の他、「ユインチホテル南城」、「糸数城跡」がそれぞれ 5 名と多く利用されています。



資料：利用者アンケート(観光客)

図-30.来訪者の立ち寄り先

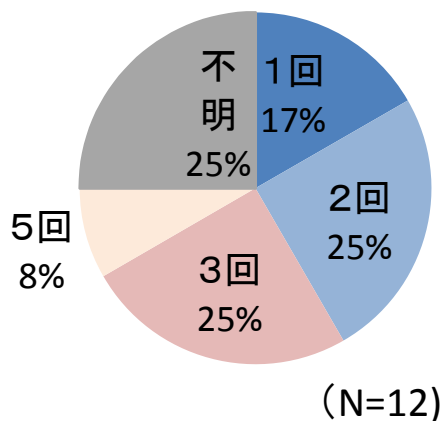


資料：「観光おまかせなんじい」乗降記録

図-31.「観光おまかせなんじい」の乗降場所

5) 観光おまかせなんじいの利用状況

●観光おまかせなんじいの利用回数をみると、2回以上利用している人が58%を占めていますが、1回しか利用していない人も17%います。



資料: 利用者アンケート(観光客)

図-32.「観光おまかせなんじい」の利用頻度

3.デマンドバス実証運行の評価

表-4.評価の視点と評価項目

求められる役割	評価の視点	評価項目	把握方法
公共交通空白・不便地域における路線バスの補完	公共交通の利用が不便な地域・時間帯で利用されているか	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンド交通の乗車・降車位置 ●デマンド交通の時間帯別の利用者数 	●システム
既存の路線バス等と一体となった公共交通ネットワークの形成	公共交通と連携した利用がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> ●安座真港での乗り継ぎ利用者数 ●馬天営業所などバスターミナルでの乗り継ぎ利用者数 	<ul style="list-style-type: none"> ●システム ●登録者アンケート
持続可能な公共交通ネットワークの形成	必要なサービスを低コストで提供できる効率的な運用形態となっているか	●デマンド交通の車両稼働率、大きさ、時間帯別利用率	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者アンケート(市民) ●登録者アンケート
	南城市の公共交通に対する財政負担は減少しているか	●デマンド交通の運営コスト	●南城市資料
南城市への観光需要の喚起 (「観光おまかせなんじい」のアンケートを継続評価) →本資料のアンケート結果は回収サンプルが少ないため参考値	南城市への観光客の立ち寄りが増加しているか	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンドバスがなかった場合の南城市来訪の有無 ●主要観光施設の来訪者数 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者アンケート(観光客) ●主要施設ヒアリング調査
	これまで南城市をあまり訪れることがない属性の方の来訪が増加しているか	<ul style="list-style-type: none"> ●路線バスでの来訪者の割合 ●沖縄に初めて観光に来た方の割合 	●利用者アンケート(観光客)
	通過型観光から滞在型観光への展開が図れているか	●南城市内での立ち寄り観光施設数	●利用者アンケート(観光客)
		●宿泊者数	●主要施設ヒアリング調査
	●南城市内の立ち寄り観光施設別のデマンド交通利用率	●利用者アンケート(観光客)	
南城市訪問の満足度、再来訪意向は高まっているか	<ul style="list-style-type: none"> ●南城市観光の満足度 ●南城市への再来訪意向 	●利用者アンケート(観光客)	
南城市の活性化に向けた交通弱者の外出支援	交通弱者の外出機会は増加しているか	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンドバスがなかった場合の外出の有無 ●外出頻度の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者アンケート(市民) ●登録者アンケート
	これまで移動手段がないためにできなかった活動が行えているか	<ul style="list-style-type: none"> ●外出先の変化 ●外出目的の変化 	●登録者アンケート

3-1.公共交通空白地域・時間帯における移動支援

- 「おでかけなんじい」の高齢者100人あたりの利用者数が多い上位10の行政区は、屋嘉部、仲村渠、兼久、百名、中山、知名、志堅原、安座真、屋比久、西原であり、系満行き路線でやや本数が多い百名、中山を除くと、いずれの行政区も運行本数は、29本/日と少なく、既存の路線バス利用の利便性が低い地域で多く利用されており、公共交通空白地域における移動支援に寄与しているといえます。
- また、「おでかけなんじい」の利用時間帯は、路線バスの運行が少ない昼間の12時をピークに前後の時間帯の利用者数が多くなっており、路線バスの空白時間帯の利便性向上に寄与しているといえます。

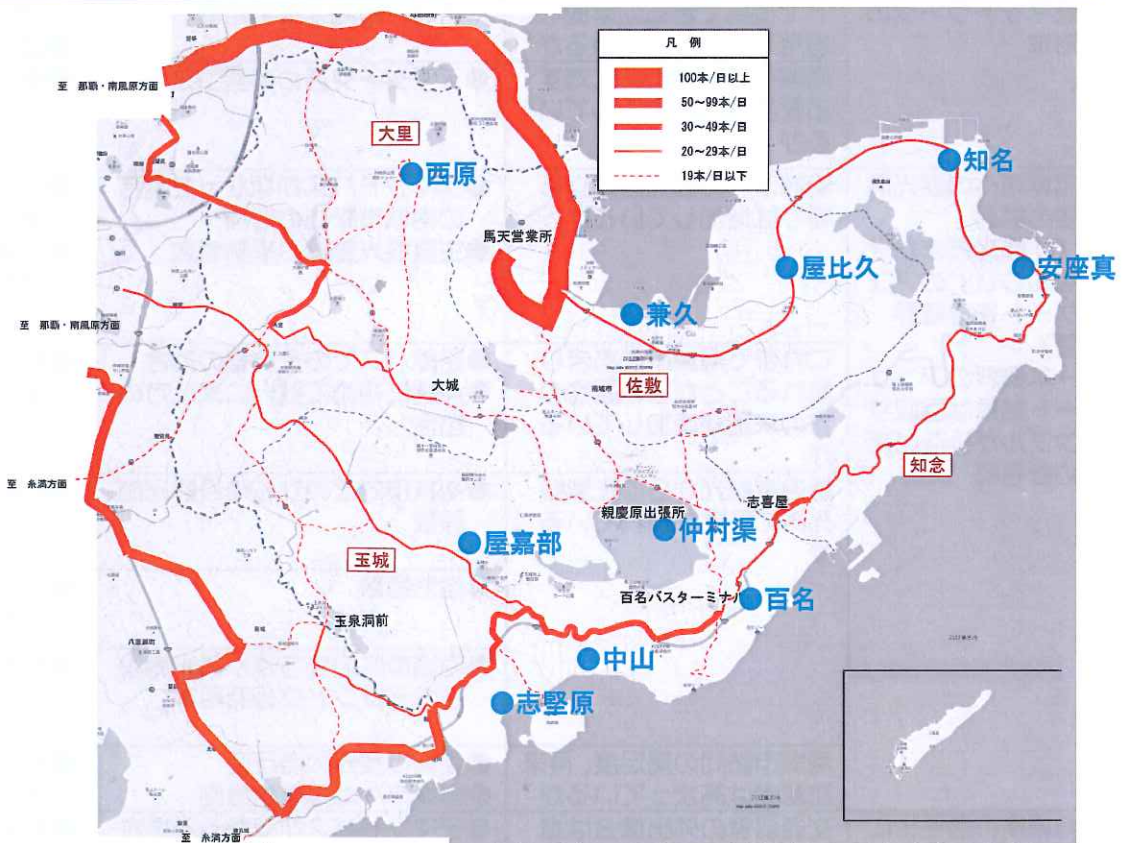


図-33.おでかけなんじいの高齢者人口あたりの利用者数が多い行政区と路線バスの運行本数の関係 (人/日)

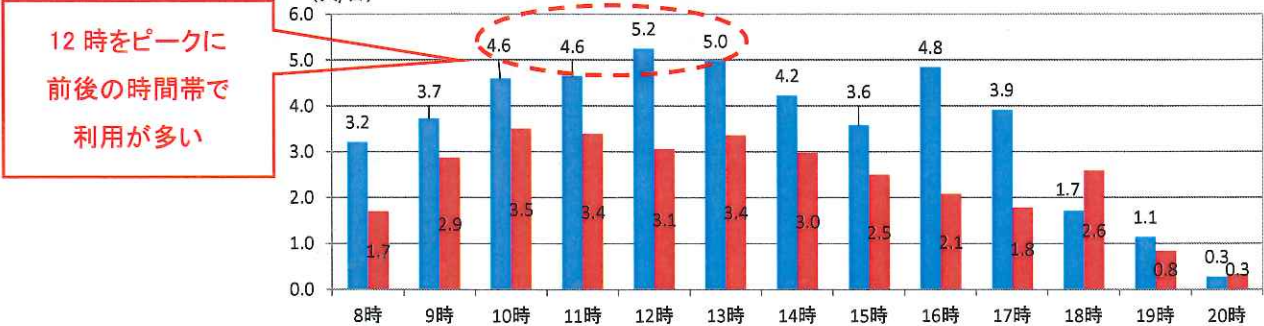
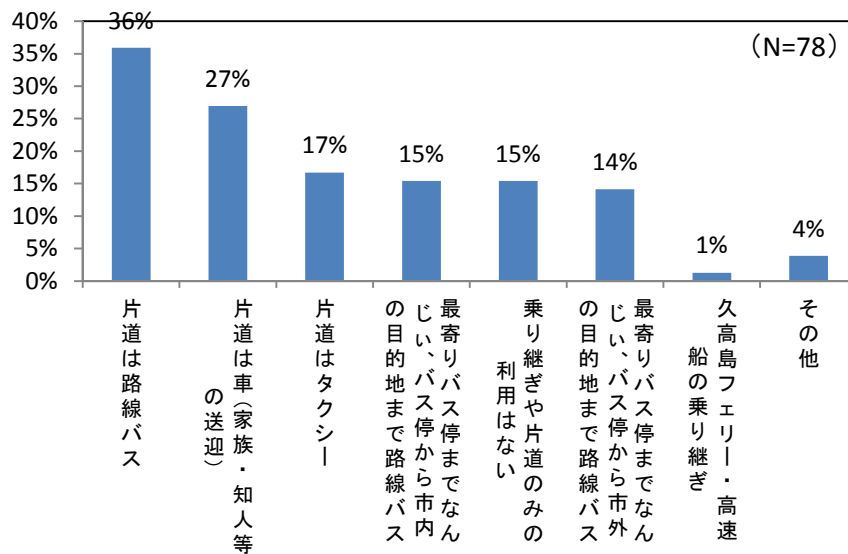


図-34.「おでかけなんじい」の時間帯別の利用者数(再掲)

3-2.既存の公共交通との連携

- 「おでかけなんじい」利用の目的地として、「馬天入口バス停」を116人、「屋宜原バス停」を53人、「新開バス停」を23人の方がこれまで利用しており、市外への路線バスまでのアクセス手段として機能していることがうかがえます。
- また、「安座真船待合所」までの利用も42人おり、久高島へのフェリーへのアクセス手段としても機能しています。
- 登録者アンケートによると、「おでかけなんじい」利用の際に、36%は「片道は路線バス利用」、27%は「片道は車」、17%は「片道はタクシー」で利用したことがあると回答しており、状況に応じて路線バスや送迎、タクシーなどと組み合わせて利用している状況がうかがえます。
- また、15%は「最寄りバス停までおでかけなんじい、バス停から市内の目的地まで路線バス」、14%は「最寄りバス停までおでかけなんじい、バス停から市外の目的地まで路線バス」と路線バスのアクセス手段として利用されていることがアンケートからも把握されます。



資料:登録者アンケート

図-35.おでかけなんじいと他の移動手段を組み合わせた移動の有無(複数回答)

3-3.財政負担の軽減

- 1月、2月のデマンドシステムの運用費用は月平均266万円/月となっていますが、これは、H23年度の公共交通への南城市の財政支出241万円/月を若干上回っており、デマンド単体で、既存の公共交通への財政支出を上回っている状況となっています。
- 今後は、有償実験等を通じ、既存の財政支出と同程度の支出で、デマンドにより市内の移動を担い、さらに現在よりも利用者の利便性が高まる可能性があるかについて、見極める必要があります。

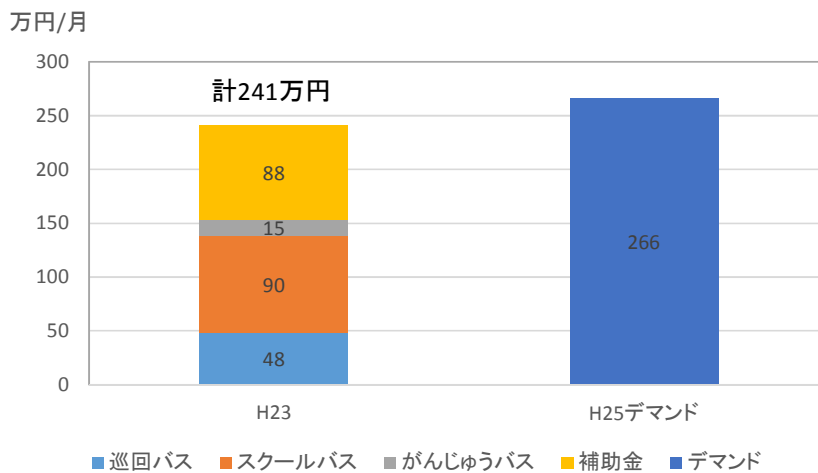
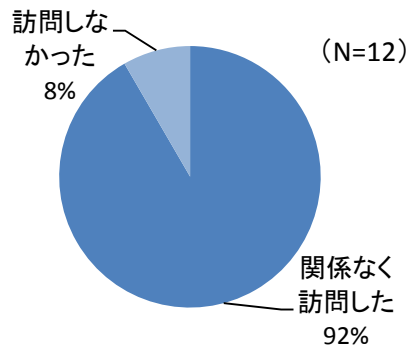


図-36.平成23年度の公共交通への財政支出とH25の実験費用

3-4.観光客の来訪促進

- 観光客への利用者アンケートによると、サンプル数は12と少ないですが、「観光おまかせなんじい」がなければ、今回南城市を訪問しましたか」という問いに対し、「訪問しなかった」と回答した方は8%であり、「観光おまかせなんじい」の導入による若干の観光客の来訪促進効果がうかがえます。

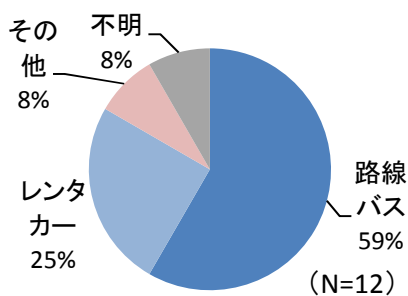


資料:利用者アンケート(観光客)

図-37.「観光おまかせなんじい」がなかった場合の南城市来訪意向(再掲)

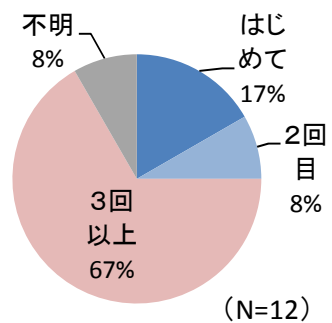
3-5.新たな観光客層の掘り起こし

- 「観光おまかせなんじい」利用者の南城市までの交通手段の59%は、過年度調査でほとんど来訪者がいなかった「路線バス」での来訪者となっています。
- また、昨年度の調査では、南城市への観光客の8割は、沖縄観光のリピーターが占めていましたが、今回の「観光おまかせなんじい」利用者も同じく8割が沖縄観光のリピーターが占めており、期待されたはじめて沖縄を訪れる客層の掘り起こしには至っていません。



資料:利用者アンケート(観光客)

図-38.「観光おまかせなんじい」利用者の南城市への交通手段(再掲)

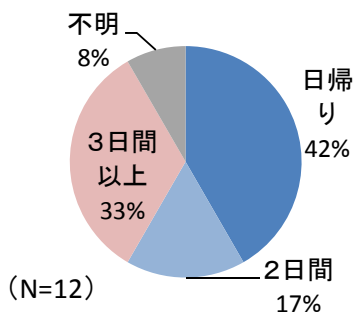


資料:利用者アンケート(観光客)

図-39.「観光おまかせなんじい」利用者の沖縄来訪回数(再掲)

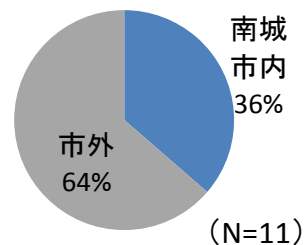
3-6.滞在型観光への展開

- 「観光おまかせなんじい」利用者の6割は、南城市に2日以上立ち寄り、そのうち36%の方は南城市内に宿泊しています。
- また、「観光おまかせなんじい」での平均立ち寄り施設数は、2.4となっており、南城市内の回遊に寄与しているといえます。



資料:利用者アンケート(観光客)

図-40.「観光おまかせなんじい」利用者の南城市滞在日数(再掲)

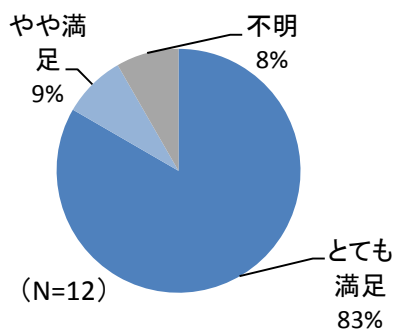


資料:利用者アンケート(観光客)

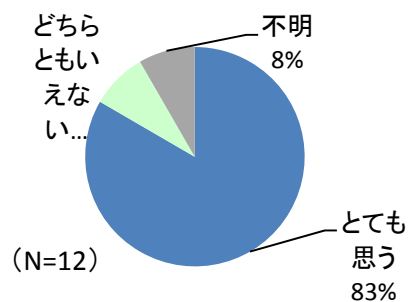
図-41.「観光おまかせなんじい」利用者の宿泊先(再掲)

3-7.南城市観光の満足度・再来訪意向の向上

- 「観光おまかせなんじい」利用者の南城市観光の満足度は、「とても満足」が83%と多く、9%も「やや満足」と回答しており、南城市内の観光に概ね満足していただけています。
- また、南城市にまた来てみたいかという質問に対し、83%の方は「とても思う」と回答しており、「観光おまかせなんじい」利用者の再来訪意向は高くなっています。



資料:利用者アンケート(観光客)

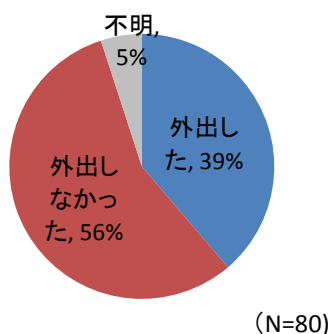


資料:利用者アンケート(観光客)

図-42.「観光おまかせなんじい」利用者の南城市観光の満足度 図-43.「観光おまかせなんじい」利用者の南城市再来訪意向

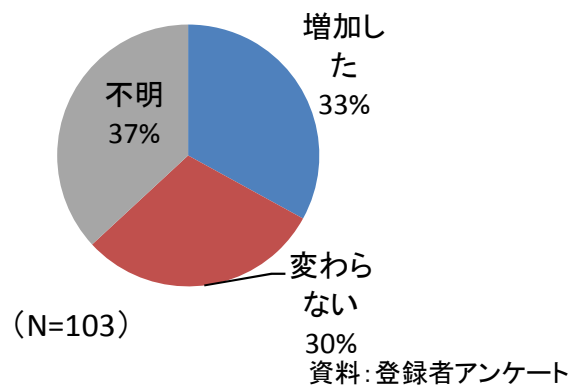
3-8.交通弱者の外出支援

- 「もしおでかけなんじいがなければ、今回、外出したと思いますか」という質問に対し、「おでかけなんじい」利用者の56%が「外出しなかった」と回答しており、交通弱者の外出支援に寄与しているといえます。
- また、おでかけなんじい導入後、33%の方は外出頻度が増加したと回答、増加した方の月平均の外出回数は、4.7回から7.6回へと2.9回増加しており、交通弱者の外出を促しています。



資料:利用者アンケート(市民)

図-44.「おでかけなんじい」がなかった場合の外出の有無

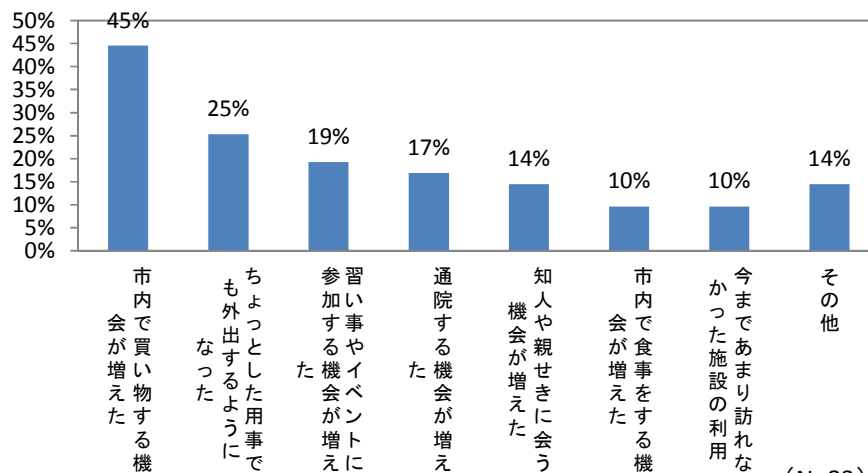


資料:登録者アンケート

図-45.「おでかけなんじい」導入後の外出頻度

3-9.交通弱者の外出機会の創出

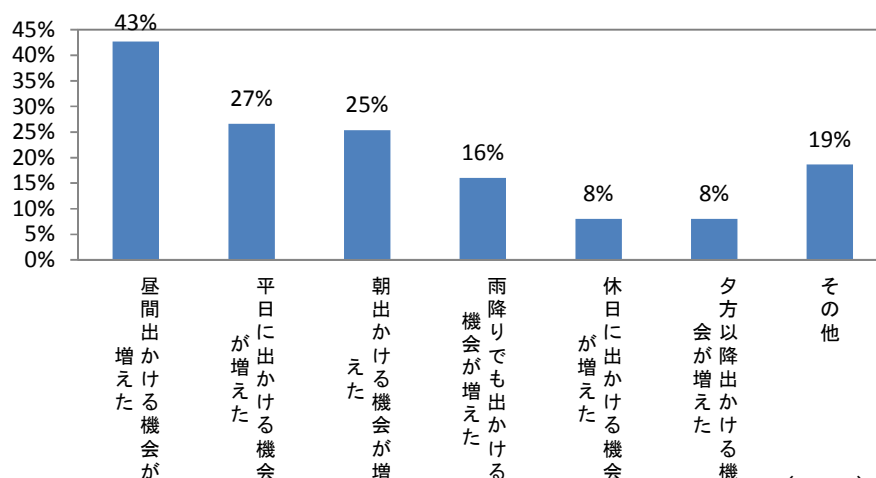
- 「おでかけなんじい」導入後に、外出目的や、外出先の変化をみると、45%の方は「市内で買い物する機会が増えた」、25%の方は「ちょっとした用事でも外出するようになった」、19%の方は「習い事やイベントに参加する機会が増えた」と回答しており、「おでかけなんじい」導入により交通弱者の外出機会が創出されているといえます。
- また、外出する曜日や、時間帯にも変化がみられ、43%の方は「昼間出かける機会が増えた」、27%は「平日出かける機会が増えた」と回答しており、平日の昼間の利用者数が多い「おでかけなんじい」の利用実態が、アンケートによっても裏付けされています。
- なお、自由回答では、「少し積極的に外出したい気持ちを持てた」、「団体活動に便利」といったコメントも寄せられています。



(N=83)

資料:登録者アンケート

図-46.「おでかけなんじい」導入後の外出機会の変化



(N=75)

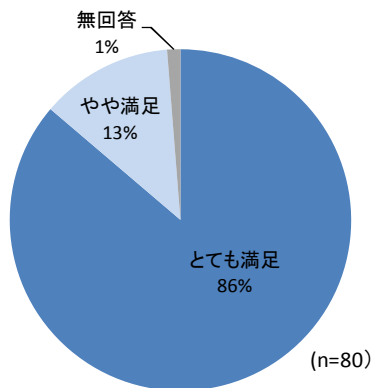
資料:登録者アンケート

図-47.「おでかけなんじい」導入後の外出曜日・時間帯の変化

4.利用者の評価

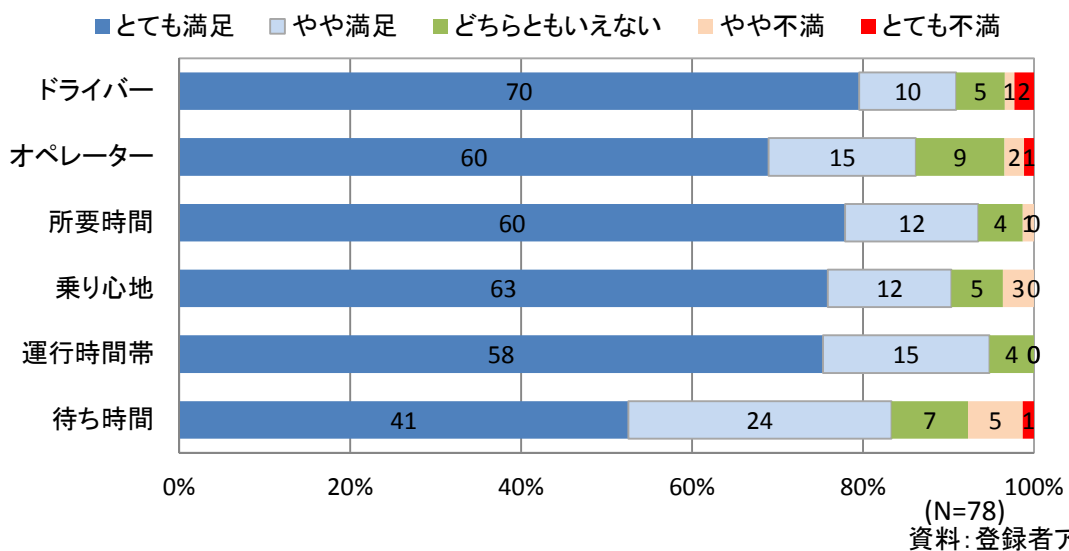
4-1.市民の評価

- 利用者アンケートでは、「おでかけなんじい」利用に対して86%の方は「とても満足」、13%の方は「やや満足」と回答しており、満足度は高くなっています。
- 登録者アンケートで把握した項目別の満足度をみると、「ドライバー」、「オペレーター」、「所要時間」、「乗り心地」について60%以上の方が「とても満足」と回答しているのに対し、「待ち時間」で「とても満足」と回答した方は41%にとどまっており、他の項目に比べると満足度が低くなっています。



資料:利用者アンケート(市民)

図-48.「おでかけなんじい」利用の満足度

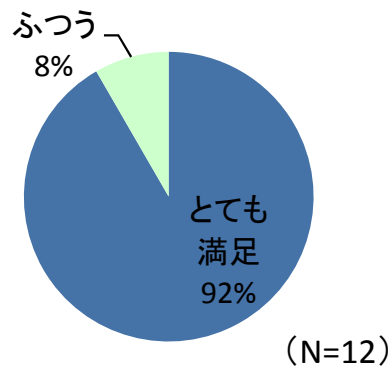


資料:登録者アンケート

図-49.「おでかけなんじい」利用の項目別の満足度

4.2.観光客の評価

- 「観光おまかせなんじい」利用に対して、92%の方は「とても満足」と回答しており、非常に高い満足度を得られています。
- 自由回答では「レンタカーで来られないので大変ありがたい」、「助かりました」、「久高島や斎場御嶽だけでなく色々動けてよかった。垣花樋川はとてもよかった」といった意見も寄せられています。



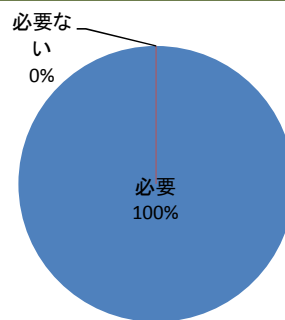
資料:利用者アンケート(観光客)

図-50.「観光おまかせなんじい」利用の満足度

5. 今後の利用意向

5-1. 市民の意向

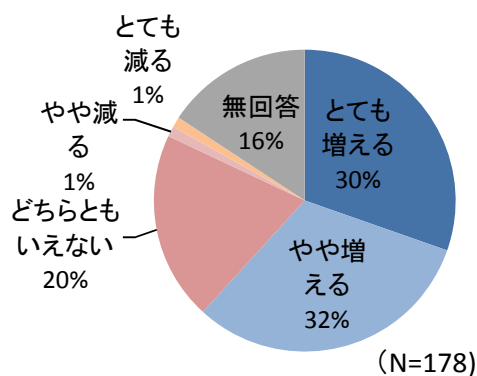
- 利用者アンケートでは、100%の方が今後も「おでかけなんじい」が「必要」と回答しています。
- 登録者アンケートでは、今後の「おでかけなんじい」の利用意向について、30%の方が「とても増える」、32%の方が「やや増える」と回答しており、約6割が増加意向を示しています。
- また、有償運行時の利用意向は、66%の方が「あまり変わらない」と回答、22%の方が「やや減少（2～3割減）」と回答しており、平均で13%利用頻度が減少するという結果になっています。（ただし、運賃はそれぞれが支払ってもよいと回答した金額となります。）



(N=80)

資料: 利用者アンケート(市民)

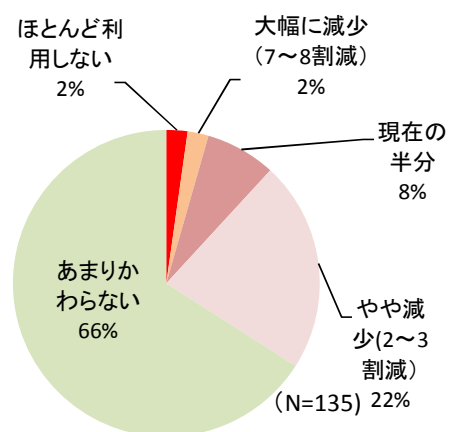
図-51.「おでかけなんじい」の必要性



(N=178)

資料: 登録者アンケート

図-52.「おでかけなんじい」の今後の利用意向

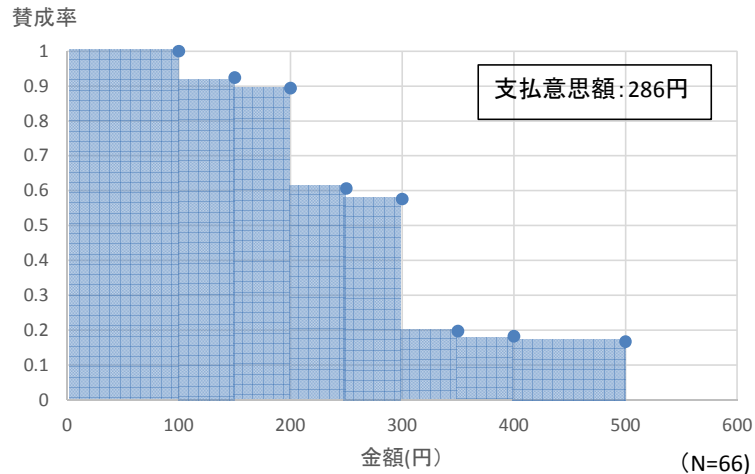


平均 13%の利用頻度の減少

資料: 登録者アンケート

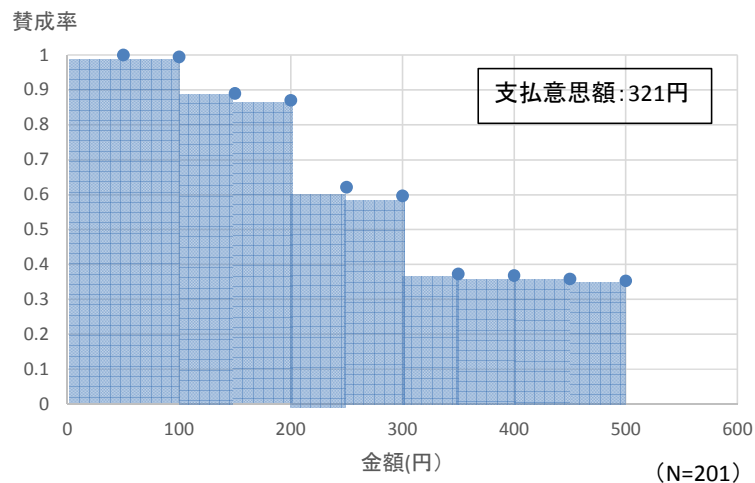
図-53.有償時の「おでかけなんじい」の利用頻度

●なお、有償時の運賃に対する意向は、利用者アンケートでは、286円、登録者アンケートでは321円までなら支払ってもよいという金額になっており、300円が有償時の運賃として想定されます。



資料:利用者アンケート(市民)

図-54.「おでかけなんじい」の支払意思額



資料:登録者アンケート

図-55.「おでかけなんじい」の支払意思額

横軸が支払金額、縦軸が各支払金額に対して賛成している方（支払ってもよいと考えている方）の割合を示します。グラフ中の点がアンケートで把握された値となり、支払意思額（支払ってもよい金額）は青で着色された部分の面積となります。

5-2.観光客の意向

●回答者のサンプル数は5票と少ないですが、「観光おまかせなんじい」に支払ってもよい金額は、1回利用で100～500円、1日利用で500～2,000円という回答を得ています。

6.今後の課題

「おでかけなんじい」の継続運行

「おでかけなんじい」の利用者は継続的に増加してきていますが、行政区によって登録者や利用者のバラツキがみられるなど、まだ、65才以上の市民に十分に認識されていません。適切に実証運行の評価を行うには、広く65才以上の市民に認知され、利用者数が安定するまで実証運行の実施が望ましいと考えられます。

また、現在の実証運行は、12～3月と日が短く、寒い時期に実施していますが、日が長く、暑い夏季では、利用時間帯や、訪問先も変わってくると思われ、年間を通した実証運行の実施が必要だと考えられます。

「観光おまかせなんじい」の継続実施

「観光おまかせなんじい」は、運行開始から日が浅く、利用者の評価も十分に把握できていないため、継続的に運行することが望まれます。

既存の公共交通機関との連携に向けた取り組み検討

「おでかけなんじい」は、路線バスや、久高島フェリーへのアクセス手段や、片道は路線バスやタクシーと組み合わせた利用など、既存の公共交通機関と連携した利用形態がみられます。南城市内の既存の公共交通機関と「おでかけなんじい」、「観光おまかせなんじい」が役割分担のもとで連携することで、利用者の移動利便性が向上するとともに、公共交通への需要増加も期待され、連携に向けた取り組み検討が求められます。

有償実験による有償時の利用状況の把握

今後、継続的に「おでかけなんじい」、「観光おまかせなんじい」を運行していくためには、有償化により一定の収入を確保する必要があります。登録者アンケートでは、有償化しても利用頻度は1～2割程度の減少にとどまるという回答を得てはいますが、どの程度減少するのかは、実際に運行して把握する必要があると考えます。また、有償運行することで、現在のように65才以上と利用者を制限することが法的に出来なくなり、学生や主婦などこれまで利用できなかった方が利用することによる影響も有償実験において見極める必要があります。